

長崎市における経済活動拠点の形成について

明治大学 公共政策大学院 ガバナンス研究科 江口 範晃

長崎における海外交易拠点の形成の歴史について

戦国・織豊・江戸期における交易拠点の形成

1570年
長崎開港協定成立 **西欧交易の始まり**

1571年
ポルトガル船初めての入港

1580年
大村純忠 6カ町イエズス会に寄進

1587年
豊臣秀吉バテレン追放令

1587年
豊臣秀吉長崎奉行設置
(長崎を直轄地とする)

(参考) 1626年
マンハッタンに
オランダ植民地
を形成

1616年
平戸・長崎以外での貿易を禁止

1636年
出島完成 市中雑居の禁止 **交易の制限**

1639年
ポルトガル船の日本渡航の禁止

1641年
オランダ商館を平戸から出島へ移転
(交易を布教と無縁なオランダに限定)

多様な人々の居住環境

1689年
唐人屋敷完成

交易拠点の整備

幕藩体制下における海外および海外へ繋がる地域の窓口

長崎
幕府によるオランダ
・中国との管理貿易

<主な輸出品>
銀→銅
(商品の買付の原資)

<主な輸入品>
生糸・絹織物・砂糖など

薩摩
琉球との交易を通じ
た中国との交易

対馬
朝鮮との通交の窓口

松前
北方との通交・交易
の窓口

<主な取引品>
海産物
銀・銅の産出量
の減少に伴い
補完

幕府・諸藩の流通環境

**全国的な幕府による
輸入品の流通統制**
長崎奉行を頂点
とした4都市の
有力商人(江戸・
京都・大阪・堺)
諸国の有力商人に
よる輸入品の流通
ルートの形成

**東西廻り航路
菱垣廻船の活躍**
巨大消費地と
物資集散機能と
生産地の連携

両替商の活躍
東西で基準貨幣が
異なる(東日本は
金 西日本は銀)

**地域特性を生かした
産業創出**
新田開発や諸藩
による産業政策

地理的關係から対外關係を担う諸藩

幕末・明治初期における交易拠点の形成

1854年・1855年

日英和親条約・日蘭和親条約を調印

1855年

海軍伝習所設置

(勝海舟・榎本武揚・五代友厚などが学ぶ)

交易関連法の整備

1858年

英語伝習所設置 (大隈重信などが学ぶ)

教育

1859年

長崎・神奈川・函館における貿易許可

(露・英・仏・蘭・米 兵庫と新潟は10年遅延)

グラバー長崎来訪

1861年

長崎製鉄所工場完成 (長崎造船所の前身)

産業

1865年

大浦天主堂献堂式

坂本龍馬亀山社中設立

交易関連施設の整備

1871年

長崎～上海海底電信線開通

長崎～東京郵便開始

インフラ

1893年

第1期長崎港湾改良工事竣工 (1877年着工)

1897年

長崎駅 (現浦上駅) 開業 (1905年長崎駅開業)

幕末・明治期における主な海外の窓口

長崎

九州を中心とした地域の生産品の貿易港
造船などの新産業との連携

多様な産業による「エコシステム」の形成

<主な輸出品>

石炭 (高島炭鉱・三池炭鉱など)
⇒1873年三池炭鉱は三井に
1874年高島炭鉱は三菱に
払い下げ

官営長崎造船所
1884年三菱に払い下げ

横浜

東京・関東圏の生産品の貿易港

流通を中心とした「機能特化型」

<主な輸出品>

生糸 (代表的売込商が独占)
⇒桐生・足利などの絹織物
周辺の養蚕製糸業の発展
茶 (外国商館にて加工)

神戸

大阪・関西圏の生産品の貿易港

流通を中心とした「機能特化型」

<主な輸出品>

綿製品 (産業革命以前は輸入品)
茶 (外国商館にて加工)

<主な輸入品>

棉花

東京・大阪

呉服・両替商などの有力商人による参画

明治期の経済動向

三菱の経営多角化

金融業・倉庫業・
不動産業・鉱山業
・造船業などへの
多角化
⇒三井・住友などと
共に財閥を形成

国立銀行条例改正

(1876年)
・日本銀行
地方金融機関
：内国金融
・横浜正金銀行
：貿易金融
⇒戦略的産業部門への
貸出による産業
育成

国民総生産の増大

企業勃興期
(1886～89年)
日清戦争
(1893～95年)
日露戦争
(1903～04年)

幕末・明治初期における交易拠点の形成



幕末・明治初期における交易拠点の形成



唐人屋敷

新地蔵所

出島

長崎奉行所西役所
海軍伝習所

現在の長崎市の状況について

長崎市の人口動向 (地域経済総覧2020 東洋経済)

面積	人口動向					
	人口・人口密度・人口変動					
	人口 (2019年)	人口密度 (2019年)	人口 (2014年)	人口密度 (2014年)	人口増減率 (19年-14年)	
		3000：橙 1500：黄 1000：黄緑 500：緑 250：水 100：青 以下：紫			+3.0：橙 +2.0：黄 +1.0：黄緑 ±0.0：緑 -1.0：水 -2.0：青 以下：紫	
長崎市	405.86	421,799	1039.27	439,318	1082.44	-4.0%
福岡市	343.46	1,540,923	4486.47	1,474,326	4292.57	4.5%
熊本市	390.32	734,105	1880.78	734,287	1881.24	0.0%
鹿児島市	547.58	604,631	1104.19	609,250	1112.62	-0.8%
富山市	1,241.77	417,234	336.00	420,434	338.58	-0.8%
金沢市	468.64	453,654	968.02	452,144	964.80	0.3%
岐阜市	203.60	409,900	2013.26	416,625	2046.29	-1.6%
高松市	375.41	428,269	1140.80	429,352	1143.69	-0.3%

九州他県の
県庁所在地

中核市
県庁所在地
(人口40万人台)

(想定される要因)

年少人口比率が低い

高齢化率が高いため死亡者数の率が高い

転入者に対して転出者が著しく多い



人口減少率が著しく大きい

長崎市の人口動向 (地域経済総覧2020 東洋経済)

人口内訳								
出生者数 (2018年)	出生者数/人口 (2018年)	死亡者数 (2018年)	死亡者数/人口 (2018年)	転入者数 (2018年)	転入者数/人口 (2018年)	転出者数 (2018年)	転出者数/人口 (2018年)	転入者数 /転出者数 (2018年)
	1.2：橙 1.1：黄 1.0：黄緑 0.9：緑 0.8：水 0.7：青 以下：紫		1.2：橙 1.1：黄 1.0：黄緑 0.9：緑 0.8：水 0.7：青 以下：紫		5.5：橙 5.0：黄 4.5：黄緑 4.0：緑 3.5：水 3.0：青 以下：紫		5.5：橙 5.0：黄 4.5：黄緑 4.0：緑 3.5：水 3.0：青 以下：紫	115：橙 110：黄 105：黄緑 100：緑 95：水 90：青 以下：紫
長崎市	2,999 0.7%	5,168 1.2%	13,093 3.1%	15,033 3.5%	87%			
福岡市	14,267 0.9%	12,347 0.8%	122,754 8.0%	110,948 7.3%	111%			
熊本市	6,805 0.9%	6,936 0.9%	42,323 5.8%	42,159 5.7%	100%			
鹿児島市	5,345 0.9%	5,985 1.0%	20,958 3.5%	21,131 3.5%	99%			
富山市	3,089 0.7%	4,664 1.1%	12,656 3.0%	11,391 2.7%	111%			
金沢市	3,774 0.8%	4,453 1.0%	17,453 3.8%	17,257 3.8%	101%			
岐阜市	2,969 0.7%	4,594 1.1%	14,919 3.6%	14,214 3.5%	105%			
高松市	3,350 0.8%	4,463 1.0%	14,857 3.5%	14,508 3.4%	102%			

九州他県の
県庁所在地

中核市
県庁所在地
(人口40万人台)

高齢化率が高いため
死亡者数の率が高い

転入者に対して転出者
が著しく多い

長崎市の人口動向 (地域経済総覧2020 東洋経済)

	年少 人口比率 (2015年)	生産年齢 人口比率 (2015年)	老年 人口比率 (2015年)	後期高齢者 人口比率 (2015年)	外国人人口 (2015年)	外国人 人口比率 (2015年)
	15.0 : 橙 14.0 : 黄 13.0 : 黄緑 12.0 : 緑 11.0 : 水 10.0 : 青 以下 : 紫	70.0 : 橙 67.5 : 黄 65.0 : 黄緑 62.5 : 緑 60.0 : 水 57.5 : 青 以下 : 紫				1.5 : 橙 1.25 : 黄 1.0 : 黄緑 0.75 : 緑 0.5 : 水 0.25 : 青 以下 : 紫
長崎市	11.7%	58.1%	28.6%	14.7%	3,380	0.8%
福岡市	13.0%	64.8%	20.3%	9.3%	23,662	1.6%
熊本市	14.0%	61.1%	23.9%	12.0%	3,763	0.5%
鹿児島市	13.5%	59.8%	24.2%	11.9%	1,670	0.3%
富山市	12.6%	58.7%	28.2%	13.6%	4,243	1.0%
金沢市	12.9%	60.8%	24.6%	11.4%	3,830	0.8%
岐阜市	12.5%	58.6%	27.2%	13.2%	5,825	1.4%
高松市	13.1%	57.3%	26.0%	12.4%	2,447	0.6%

年少人口比率が低い

九州他県の
県庁所在地

中核市
県庁所在地
(人口40万人台)

長崎市の地価・建設動向 (地域経済総覧2020 東洋経済)

地価・建設動向									
住宅地平均地価 (2018年)	住宅地平均 地価増減率 (18年-17年)	商業地平均地価 (2018年)	商業地平均 地価増減率 (18年-17年)	商業地地価 /住宅地地価 (2018年)	新設住宅着工 床面積 (2017年)	新設住宅着工 床面積/人口 (2017年)	建築物着工 床面積 (2017年)	建築物着工 床面積/人口 (2017年)	
	10.0: 橙 8.0: 黄 6.0: 黄緑 4.0: 緑 2.0: 水 0.0: 青 以下: 紫		10.0: 橙 8.0: 黄 6.0: 黄緑 4.0: 緑 2.0: 水 0.0: 青 以下: 紫	5.0: 橙 4.5: 黄 4.0: 黄緑 3.5: 緑 3.0: 水 2.5: 青 以下: 紫		100.0: 橙 90.0: 黄 80.0: 黄緑 70.0: 緑 60.0: 水 50.0: 青 以下: 紫		170.0: 橙 150.0: 黄 130.0: 黄緑 110.0: 緑 90.0: 水 70.0: 青 以下: 紫	
長崎市	440	-0.1%	2,478	4.0%	5.6	182,087	42.1%	291,585	67.5%
福岡市	1,281	4.4%	9,077	11.1%	7.1	1,100,637	72.7%	1,890,637	124.8%
熊本市	624	1.2%	2,935	5.9%	4.7	799,071	108.9%	1,230,193	167.6%
鹿児島市	887	-0.5%	2,411	0.9%	2.7	384,407	63.4%	613,245	101.1%
富山市	369	0.4%	1,154	1.0%	3.1	314,764	75.2%	525,530	125.6%
金沢市	740	1.5%	2,216	4.6%	3.0	354,744	78.1%	559,388	123.1%
岐阜市	645	-0.4%	1,541	-0.3%	2.4	306,388	74.7%	539,764	131.7%
高松市	479	0.2%	1,100	0.6%	2.3	322,306	75.3%	571,540	133.2%

九州他県の
県庁所在地

中核市
県庁所在地
(人口40万人台)

(想定される要因)
平地部分が市全域
にわたり少ない

中心市街地の形成
の遅れ

市街地の機能更新の
範囲が限定されている



商業地地価が
住宅地地価に比べて
高い

人口に対し住宅着工・
建築物着工面積が
著しく少ない

長崎市の産業動向 (地域経済総覧2020 東洋経済)

経済動向														
製造業			商業			総合			製造業			商業		
製造品 出荷額 (2016年)	卸売 年間販売額 (2016年)	小売業 年間販売額 (2016年)	製造品 + 卸売 + 小売 (2016年)	製造品 + 卸売 + 小売/人口 (2016年)	製造品/製造品 + 卸売 + 小売 (2016年)	卸売/製造品 + 卸売 + 小売 (2016年)	小売/製造品 + 卸売 + 小売 (2016年)	製造品 出荷額/人口 (2016年)	卸売年間 販売額/人口 (2016年)	小売業年間 販売額/人口 (2016年)				
			3,500,000 : 橙 3,000,000 : 黄 2,500,000 : 黄緑 2,000,000 : 緑 1,500,000 : 水 1,000,000 : 青 以下 : 紫	9.0 : 橙 8.0 : 黄 7.0 : 黄緑 6.0 : 緑 5.0 : 水 4.0 : 青 以下 : 紫	80.0 : 橙 70.0 : 黄 60.0 : 黄緑 40.0 : 緑 20.0 : 水 10.0 : 青 以下 : 紫	80.0 : 橙 70.0 : 黄 60.0 : 黄緑 40.0 : 緑 20.0 : 水 10.0 : 青 以下 : 紫	80.0 : 橙 70.0 : 黄 60.0 : 黄緑 40.0 : 緑 20.0 : 水 10.0 : 青 以下 : 紫	3.5 : 橙 3.0 : 黄 2.5 : 黄緑 2.0 : 緑 1.5 : 水 1.0 : 青 以下 : 紫	3.5 : 橙 3.0 : 黄 2.5 : 黄緑 2.0 : 緑 1.5 : 水 1.0 : 青 以下 : 紫	3.5 : 橙 3.0 : 黄 2.5 : 黄緑 2.0 : 緑 1.5 : 水 1.0 : 青 以下 : 紫				
長崎市	523,576	729,092	379,598	1,632,266	3.87	32.1%	44.7%	23.3%	1.20	1.67	0.87			
福岡市	576,210	11,603,315	2,139,938	14,319,463	9.29	4.0%	81.0%	14.9%	0.38	7.73	1.43			
熊本市	411,067	1,512,010	780,047	2,703,124	3.68	15.2%	55.9%	28.9%	0.56	2.06	1.06			
鹿児島市	362,550	1,942,237	662,715	2,967,502	4.91	12.2%	65.5%	22.3%	0.60	3.20	1.09			
富山市	1,255,044	1,224,252	510,299	2,989,595	7.17	42.0%	41.0%	17.1%	2.99	2.92	1.22			
金沢市	529,193	2,073,154	593,144	3,195,491	7.04	16.6%	64.9%	18.6%	1.16	4.56	1.31			
岐阜市	246,832	1,033,173	460,144	1,740,149	4.25	14.2%	59.4%	26.4%	0.60	2.52	1.12			
高松市	342,330	1,795,999	601,284	2,739,613	6.40	12.5%	65.6%	21.9%	0.80	4.18	1.40			

九州他県の
県庁所在地

中核市
県庁所在地
(人口40万人台)

(想定される要因)

九州の西端という地理的条件

陸上交通インフラ整備の遅れ (鉄道・自動車)

中心市街地の形成の遅れ

個人取得が低い・高齢化率が高い



製造品出荷額 (生産機能) の人口比率は比較的高いが
卸売販売額 (取引機能)・小売販売額 (消費機能) の
人口比率は著しく低い

地域特性の活用へつながる経済活動拠点の形成について

日本における国土整備の過程

1 マーケット1.0 工業化社会への転換以前 都市の生産拠点化
農業や水産業や鉱業などの各地域の有する自然的特性を生かし
国土全体における産業の分散が進むこととなった

2 マーケット2.0 工業化社会 都市の流通拠点化
経済規模の拡大により、分業システムおよび資本の集中、
規模の経済が進み、首都圏への一局集中が進むこととなった

3 マーケット3.0 地域の価値をつなぐブランド力

4 マーケット4.0 個々のニーズに対する多様性

- 1 地域の有する多様な価値を引き出す
(近隣地域における経済循環)
- 2 他の地域との融合を生み出す
(首都圏や海外を含めた他の地域との連携ネットワーク)

地域の経済循環

①生産・販売 ②分配(所得) ③支出(消費)
の循環によって成り立つ

1 広域連携

- ・ 地域間交易の活発化
- ・ 地域の核となる産業の強化
- ・ 地域企業を中心としたクラスター化
- ・ 民間設備投資の流入

2 域内循環

- ・ 取得の地域内での循環のしくみづくり
- ・ 公共機関を骨格としたコンパクトシティ
- ・ 再生可能エネルギーの利用による地産地消

分野横断型の政策

多様な地域資源の活用

コミュニケーション
×
ファイナンス

多様な価値

長崎市および周辺地域による都市圏の形成

※都市圏の形成による各地域の有する特性の連携・補完

長崎市

諫早市・大村市

島原市・南島原市・雲仙市

地理的条件

狭隘な平地

諫早平野

広域交通

新幹線ターミナル駅
×外航内航の拠点港
広域交通の結節点

新幹線停車駅
×海上空港
広域交通の結節点

地理的条件を生かした東アジアとの物流および人的交流

製造業

造船など既存産業の集積
→既存技術の新産業への展開

半導体などの新産業の集積
→高付加価値な新産業の創出

関連産業によるクラスターの形成
「群」としての価値・「リソース」の活用

農業・水産業

地理的条件による漁業振興
⇔大学などとの産学協同

丘陵地を活用した
農業の高付加価値化

地域産品間の連携によるブランド化
「群」としての価値・「リソース」の活用

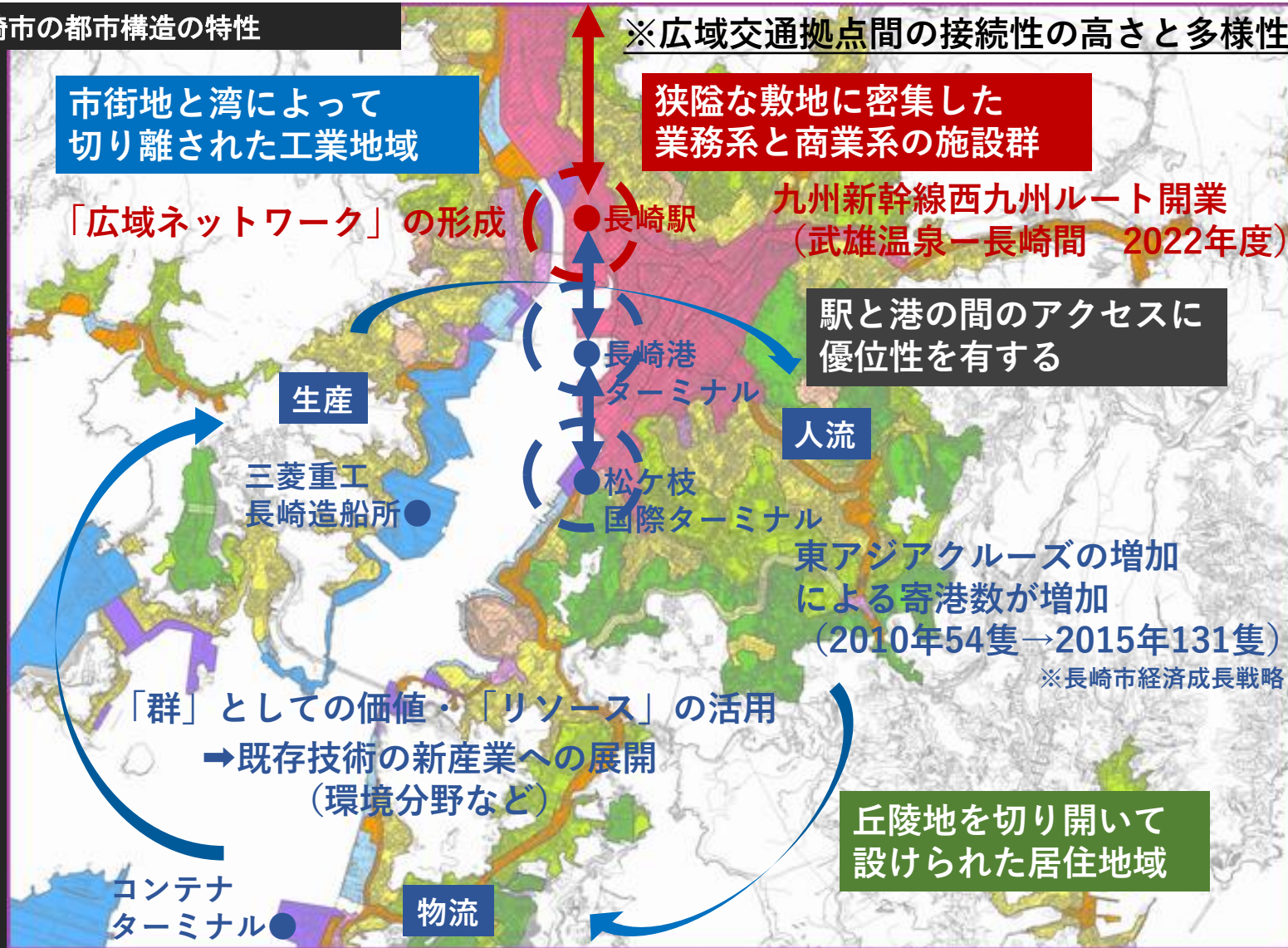
観光

江戸期貿易・キリスト布教・
戦災遺構などの観光資源

城下町・キリスト布教・
被災遺構などの観光資源

近世・近代・現代にわたる多様な観光資源の集積
「群」としての価値・「リソース」の活用

長崎市の都市構造の特性



長崎市街地における環境整備の方針

※二拠点の形成と都市軸の創出

長崎駅周辺
(陸の玄関口)

周辺地域との交通
ネットワークの充実・強化

公共交通機関施設
の充実・強化

水辺の地区
(海の玄関口)

新駅舎と港湾施設
を結ぶ動線の整備

クルーズ客船の
受け入れ体制の強化



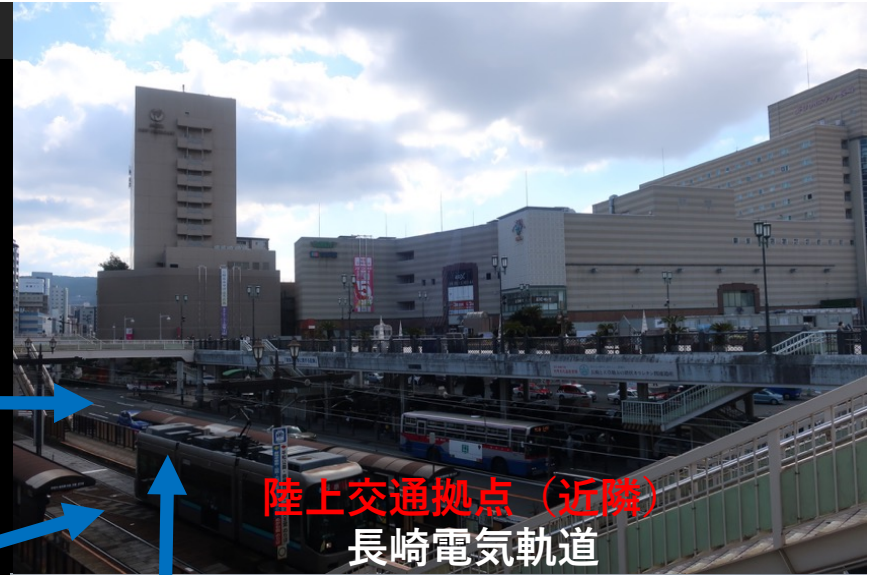
歩行者動線の整備による
回遊性の向上

長崎市街地における環境整備の方針

(広域交通拠点)



陸上交通拠点 (広域)
JR長崎駅



陸上交通拠点 (近隣)
長崎電気軌道

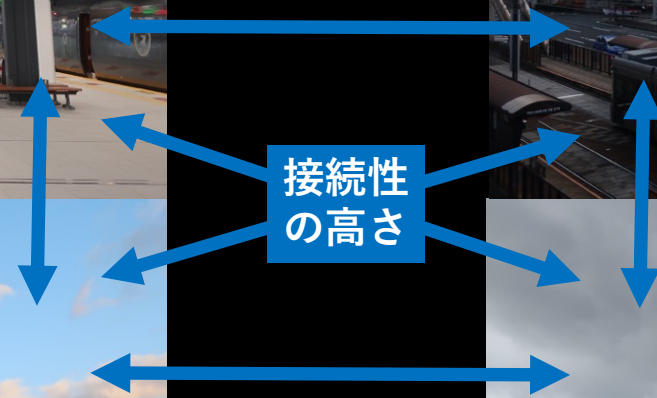


海上交通拠点 (内航)
長崎港ターミナル



海上交通拠点 (外航)
松ヶ枝国際ターミナル

接続性
の高さ



長崎市街地における環境整備の方針

(観光拠点)



現代歴史遺産
平和公園

多様な観光資源が
市街地全域に分布



近世歴史遺産
日本二十六聖人殉教記念碑



近世歴史遺産
出島



博物館
長崎歴史文化博物館

広域にわたる
回遊歩行空間



美術館
長崎県美術館



近代歴史遺産
大浦天主堂

長崎市街地における環境整備の方針

(行政拠点)

長崎駅周辺
(陸の玄関口)

J R長崎駅



島嶼部も含めた
圏域の中核と
設定

中心市街地の
形成の推進



市内の各地区を結びつける
位置に建設

まちなか軸

水辺の地区
(海の玄関口)

臨港地区における環境整備の手法

※上段は
長崎に
おける
取組み

ハード

ネット
ワーク

ソフト



多目的な施設の導入

産業創出環境の整備 ブルックリン・新潟

産業



出島メッセ

メッセ機能の新設



平和公園

既存施設の活用

スポーツ環境の整備 ブルックリン・福岡



スタジアムシティ

スタジアムの新設



長崎駅・電気軌道

広域交通・域内交通網の整備

交通網・交通拠点の整備



楽しめる要素

富山・横浜

インフラ



水辺の森公園

海に見える景観

遊歩道ネットワークの整備



まちなか軸

拠点間の回遊性

女川・ハイライン



倉庫街のリノベーション

関連施設のオープン化 天王洲・福岡



長崎漁港

市場の生活拠点化



海軍伝習所

大学のオープン化

大学などの教育機関との連携



英語伝習所

多様な教育の場の提供

品川

教育

